

令和6年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

春日井小学校

1. 本校の教育目標

- 春日井小学校の歴史と伝統の重みを認識し、児童・教職員で共有するとともに、その上に立って、更に新しい伝統や校風を作り上げていくことに努める。
- 知・徳・体の調和がとれ、人間性豊かで実践力のある児童の育成をめざす。

2. 特別の教育課程の内容

（1）特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

（2）特例の適用期間

平成28年4月1日～令和11年3月31日

（3）実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、（特別支援学級 単独でも実施）

（4）地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を

図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児童	・前学年より字形を整えて、上手に書くことができるようになった。 ・個別指導で、分かりやすくアドバイスをしてくれるので自分の癖や課題が明確になる。 ・筆使いについて、水書版で丁寧に指導してくれるので、筆運びや扱い方がよく分かる。
教員	・筆の動かし方などを基礎から丁寧に指導してもらえて自身の技量も上がった。 ・低学年から道具の扱い方を指導してもらえるので、全校統一の方法で指導できた。 ・2年生から習字道具の使い方を指導してもらえるので、3年生に上がった時に同じ要領で指導できる。
保護者	・1年生から書道に親しむ機会があり、これからも継続してほしい。 ・とめ、はね、はらいに気を付け、一画一画字を丁寧に書く意識付けになっていると感じる。 ・「書のまち春日井」という良い伝統をこれからも引き継いでいってほしい。

(3) 学校関係者評価

- ・日頃から書に親しむことで落ち着いた学校生活を送ってもらえるとよい。
- ・一画一画丁寧にゆっくりと字を書く習慣をこれからもぜひ続けてほしい。
- ・毎年続けることで、学年が上がっても全学級統一した指導に繋がっている。
- ・字を書く正しい姿勢についても身につけてほしい。
- ・個別指導を通して自分の課題を明らかにして、上達するよう粘り強く学習してほしい。
- ・書道科の取組を、他地域にも発信していってほしい。